

例会報告 Rotary



ロータリーは世界の扉を開く

第2624回例会 令和2年9月18日
ガバナー卓話

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 塚 和信
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 下屋 勝比古
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 榎坂 純一

＜会長の時間＞

13日(日)、私は大坂なおみ選手の全米オープンテニス女子決勝戦を観戦しようと朝5時に起床しました。残念ながら、WOWOWとの契約をしていませんのでファーストニュースによる経過しか分かりませんでした。第1セットを1-6で落とし、第2セットいきなりサービスゲームをブレイクされ0-2となったところで、「これは負けだな」と思い、テレビを付けて報道番組を見ていました。しばらくして携帯電話を見たら、4-2と逆転してあつという間に6-3で第2セットを取り、第3セットはサービスのブレイク合戦で6-3として、2度目の全米オープンテニスの優勝を果たしました。今大会の大坂なおみ選手は、何と言ってもメンタルが強くなりました。そして前回は強烈なサーブを武器に優勝しましたが、今回は体幹を鍛え華麗なフットワークによりストロークのラリーで打ち勝つという本当の強さにより優勝しました。



それともう一つ、注目されたのは「選手である前に一人の黒人女性である」という思いで「人種差別への抗議」を示しながら戦ったということです。これまでスポーツ界では「人種差別への抗議」として、様々なデモンストレーションが行われてきましたが、その度にスポーツ精神の基本原則に反する行為として処罰されてきました。有名なのは、1968年メキシコシティオリンピックでの陸上男子200mの表彰式で、同種目で当時の世界記録で優勝したアメリカのトミー・スミス選手と、3位になった同じくアメリカのジョン・カーロス選手の黒人差別に抗議するデモンストレーションです。この二人の選手はアフリカ系アメリカ人で、表彰台にシューズを履かずに黒いソックスを履いて上り、スミス選手は黒いスカーフを首にかけていました。アメリカ国歌が演奏され、星条旗が掲げられるや、スミス選手とカーロス選手は、国旗から目を反らし、黒い手袋を着けた手で握り拳を突き上げました。「ブラックパワー・サリュート」と呼ばれるデモンストレーションで、アメリカで起こっている黒人差別への抗議でした。この選手らの映像と写真は世界中に配信され、大きな社会問題になりました。IOC広報担当者はこの選手らの行為を「オリンピック精神の基本原則に対する意図的かつ暴力的な違反」として非難し、IOCはスミス選手とカーロス選手をオリンピックから永久追放することを決定、2選手はアメリカに強制帰国させられました。テニスの四大会では本来、特定の思想やメッセージが書かれているものを身につけることは禁じられていますが、全米テニス協会は人種差別に対する米社会の関心の高さから今回の大坂なおみ選手のデモンストレーションを許可しました。大坂なおみ選手は、人種差別により犠牲者の名前が書かれた7枚のマスクを用意しすべて使いました。このことにも、うかがえます。大坂なおみ選手は優勝インタビューで、「マスクを介して伝えたいメッセージは何ですか？」という質問に、「あなたが受け取ったメッセージはなんでしたか？それ以上の質問はありませんか？これを機会に皆が話し始めることが重要だと思います」と言っています。私たち日本人は、ほぼ単一民族で島国でもあり「人種差

別」という問題は、頭では悪いことだとわかっている、身近に感じることがないため真剣に考えることがありません。アメリカでは開拓時代から南北戦争が終わるまで続いた「奴隷制度」と、奴隷をおさえるために「銃社会」がはじまったとされ、400年以上にわたり抱えている根深い問題でもあります。大坂なおみ選手の今回のデモンストレーションにより、スポーツ界は変わろうとしています。そして、このメッセージを受け取った全世界の多くの人々が、考え行動を起こし「人種差別」を無くしていかなければなりません。

＜幹事報告＞

◎地区代表幹事より

- ・不審メールについての注意喚起

差出人名 … RID2630 2020-21年度ガバナー事務所、地区事務所、会員個人名および個人メールアドレス

※ 差出人名横が全く別のアドレスとなっています。

差出人名横のアドレスをご確認ください 正規アドレスは以下
ガバナー事務所 2021@rid2630.jp、地区事務所 branch@rid2630.org

＜例会変更＞

美濃加茂 … 9月25日(金)は、秋の親睦例会のため27日(日) 17:30~ リバーポートパーク美濃加茂 に変更

可児 … 9月17日(木)は、コロナ感染拡大のため、取りやめ
9月24日(木)は、休会 ⇒ 通常例会 に変更

＜受贈誌＞

高山RC(会報)、下呂RC(会報)、米山記念奨学会(ハイライトよねやま246)

＜出席報告＞

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
26名	-	26名	35名	74.29%

＜ガバナー卓話＞

国際ロータリー
第2630地区ガバナー

劔田 廣喜 様

皆様こんにちは、ガバナーとして4年ぶりのご無沙汰でございます。当地区では前代未聞と言われます2度目のガバナーを務めさせていただきます、高山中央RCの劔田でございます。よろしく、お願い申し上げます。



例会報告

皆様と共に今年度ロータリー活動ができますことを大変嬉しく存じておりましたが、現在、コロナ禍によって、世界が、日本が、ロータリーが大きな困難に直面しています。我が地区においても、PETS、地区研修・協議会が中止となり、オンライン研修に切り替えを致しました。今年度に入りまして今度はコロナ第二波の影響で合同ガバナー公式訪問、GTMは殆ど中止か延期となり、例会を休止するクラブも出て参りました。現在、ロータリー活動は制約されていますが、今こそ本質を見つめてロータリーとは何かを考える時だと思えます。

又、この状況はすぐには変わりません。ならば、自分の認識を変えるしかありません。起きていることをネガティブに捉えるのではなく、できるだけポジティブに、「良いも悪いも本人の考え次第」です。そして、私たちは、コロナと戦う中でまた、それを乗り越えた先に「あー、ロータリアンで良かった」と思われるロータリーにしていかなければならないと思えます。

本日は、公式訪問に御出席頂いたわけですが、朝からウキウキとしてここへ来られた方は、私も含めて一人もいないのではないかと思います。私もロータリアンになりましてから30年近く経つわけではありますが、ロータリーの集まりで、朝楽しく出かけた日は、いまだかつて一度もありません。ただゴルフの時とか、旅行の時とか、一杯飲む時は、これはもうウキウキして出かけるのですが、こういう公式訪問とか、セミナーとか、こういうのは本当に面白くないと思ってしまうのですが、ただ一つ救われることは何回かに一回ですけれども「あっ、今日来て良かった」と思うことがあるわけです。今日がそういう日であることを、皆様と一緒に祈りまして話をさせて頂きたいと思えます。

ロータリーというのは、はなはだ妙なものでありまして、入り込むとずるずると入り込むのですが、また嫌になると「こんなつまらないもの」というのがバイオリズム（「身体」・「感情」・「知性」）みたいに続きます。それがまた魅力的と言えれば魅力的かもしれませんが、こういうスランプのときは俯瞰的に自分を、ロータリーを見つめてみると、「あっ、そうか、そうか」と案外道が開けてきます。ロータリーとは何か、ロータリアンとか何かと言う事もなかなか難しい問題であります。ただ一言えることは、ロータリアンだから税金が安くなるとか、お金が儲かるとか、儲からないとか、そんな事は絶対ないです。ですから、別に嫌ならやめたいいいんですね。別に罰金を取られるわけでも何でも無い、面白かったらやっていたらいいんですよ。しかし、辞めるにあたっては、本当にイヤだと思うほどやったかどうかは、考えてみて頂きたいと思えます。

クラブに依って違うかもしれませんが、会費やニコニコとか財団、米山寄付など、うちのクラブでも大体30万～40万ぐらいのお金はかかります。もっと多いクラブもあると思えます。それと、大体40回ぐらいの例会で、1時間といいますが、前後の時間も入れて、それから委員会やなんやかんや出ると言われて、時々は出ないとまずいと思うので、そんなのを全部入れると、やっぱり年間100時間は最低要ります。ガバナーとかロータリー命なんて人は別ですよ、ほとんどロータリーの為に時間を使っています。そして、クラブ内でちょっと気を遣いますね。

「こんな事言いたいけど、あの人が怒るかもしれない」と、ちょっと妥協して気も使います。ちょっと気を遣って、100時間使って、30万～40万使って、果たして採算取れるかどうか考えると、採算取れないと思う人が辞めていきます。

では辞めていけない人はどういう人かと言うと、ロータリーを理解している、魅力を感じている、メリットを感じている人達です。

それでは、ロータリーの魅力とは何でしょうか？それは会員にとって異なります。しかし、本質の中に見出された魅力でなければ長続きしません。私はロータリーの中心概念（親睦）にあると思えます。

ホルガー・クナーク RI 会長は、親睦はロータリーの根幹である、と言われており、1923～24年 RI 会長ガイガン・デッカーは、

ロータリーの親睦とは、ロータリーと言う苗木が成長する為に、その根に栄養を与える土壌である、と言われてます。

親睦とは英語で Fellowship（意味は、理念・目的を共有する仲間意識という事です）ロータリー理念とは相手の事を思い相手に一生懸命尽くすことであります。

目的とはその理念を推奨、育成することです。地域の良識ある職業人と知りあい、親しくなり、友人度を高めていき、自分をいろんな面で高め、成長させていき、立派な職業人となっていく事です。ロータリーは人をつくる団体だという人がおります。またロータリーは卒業のない人生の大学だと言った人がいます。このような良識ある色んな職業人の集まり、これこそがロータリーの最大で、第1の魅力だと思います。その為にも Face to Face の例会が一番の魅力であります。現状では、オンラインとリアルをベストミックスした集会、会合にして、会員との絆を切らさないようにして頂きたいと思えます。

コロナ禍によりロータリー活動はかなり制限されていますが、コロナ禍に学ぶ人類の生き方、ロータリーの在り方について考えてみたいと思えます。

川柳に”落語家殺すに刃物はいらぬ、欠伸一つもすればよい”と言うのがあります。ロータリーにもあります。”ロータリー殺すに刃物はいらぬ、前年どうりにやればよい”。そのひそみに做えば“コロナ殺すに刃物はいらぬ、人の流れを止めりゃよい”ということでしょうか。

新型コロナウイルス感染拡大は、何事もグローバル化が正しいという潮流があり、行き過ぎた資本主義がベースになっていると言われております。資本主義を前提とした自由主義経済「誰でも自由に制限なく経済活動ができる」という事です。

これを堀場製作所の創業者 堀場正雄 PG は非常に簡単にいうと、たくさん作ってたくさん売る事と言われております。たくさん作ることに限らず、地球の資源をやはりたくさん使わなくてはならない。作るときには、地球のエネルギーをたくさん使わなくてはならない。そして、たくさん売ると言う事はどこかで消費がなかったら、売れませんからね。ドンドン消費する。消費すると言う事は、どこか廃棄がなかったら、ドンドン物がたまりますから、ドンドン捨てていかないと消費できないわけです。

このサイクルを考えていくと、一番今が21世紀の大きなテーマの一つであります地球環境ということにおいては、たくさん資源を使い、たくさんエネルギーを使い、そして廃棄することによって、またそこに廃棄物を処理するために大きなエネルギーと資源を使う。これで経済が発展することは、これはもう地球環境において限界にきていることはだれも否定できない訳です。

今一つ「自由主義経済」の致命的欠陥は、弱肉強食、強いやつが弱いやつを肉を食う。強いやつはますます太る。弱いやつはますます痩せていくと言う事です。だから日本でも、実力主義とか、成果主義というのは、みなそうです。やる奴にはドンドンサラリーをたくさんあげましょう、やらない奴には、ボーナスも出しませんよ、ということは、まさに弱肉強食なんですね。それはもちろん会社の中でも行われ、地域の中でも行われ、そして国家間でも行われているわけですね。

これは原則として、スクラッチプレーです。ゴルフの場合でしたら、ハンディを10くださいとか、8くださいとかで、ハンディをもらって対応する競争ができるわけですが、残念なことに経済の戦いというのは、「お前のところは弱いから、10%、20%原価安くしてやろう」と、そんなこと言ってくれませんか。全部スクラッチプレーですから、シングルの人とハンディ36の人とだったらハンディ36の人は、負けますね。もう決まったことです。ということは、弱い国はドンドン弱くなる、強い国はドンドン強くなります。

今の世界で色々戦いが行われている。もちろんこれは民族の問題とか、宗教の問題とか色々あります。あるけれど、その元は何か、根本的な問題は何か、これは富の偏重なのです。色々と思える言

例会報告

けれど、結局はドンドン儲かっている国と、ドンドン疲弊している国がある。けしからん、これをやっつけるにはどうしたらいいか。シングルの人とハンディ36の人とゴルフをして、シングルに勝つ方法は何か。それは、白杭を持って、シングルが打った途端に走り、ボールが落ちた内側に白杭を打つんです。そうすると、それはOBです。自分が打つ時には、白杭を全部外してしまっただこへ打つてもOBはないですね。これは何かって言うと、これがテロなんです。テロしか、アウトローしかシングルの人に勝つ方法はないんです。だからテロが行われている。テロの原因は何か。富の偏重なんです。非常に明確な答えだと思います。

其れが何故、そのまま放ってあるかという、資本主義に代わるものがないからです。しかし、地球環境の問題がある、富の偏重の問題がある、一体これはどうして律するのか、だれがどう決めるのか、法律で決めるのか、出来ません、罰則をもうけてもだめです。ではどうするのか？これは個々の人間の倫理観に頼る以外方法はないわけです。しかし、人間の場合は、欲の方と倫理の方と二つのコントロールタワーがあり、この二つのコントロールタワーのバランスに苦しみ、悩みをもっています。人間にとって、欲よりも倫理を優先することは大変なことです。

しかし、ポストコロナが我々人類に提示した課題は「生き方の改善」ではないかと思えます。

人類はコロナの様な病原体のみならず地震、洪水、台風などの自然災害とも繰り返し戦っていかねばならない、これらに対して人類は常に被害者面することはできない、加害者の側面も有しているからです。科学の発展と文明の破壊が同時進行しているのです。今こそ立ち止まって生き方を改善しなければ、人類の生命どころか、地球の生命さえ脅かされる段階にきていると警鐘がなっているのです。収奪、破壊、浪費をやめなければなりません。

国連の「持続的な開発目標」(SDGs)で提示された飢餓貧困の追放の為の17項目は、先進国の収奪、浪費を重ねてやまない社会機構、わがまま、贅沢からもたらされたものだと思えます。我が国も例外ではありません。例えば、世界で満足に食べられているのは3分の1、餓死寸前にあるのは3分の1と言われている状況にあって、日本人一億が食べ残しをやめたら、飢餓に瀕した2000万人を救えると言われております。人間だけは他の生物と違って生命維持に必要な量の幾十倍、幾百倍のエネルギーを消費し、そのため限りある地球の資源を食いつぶし、もたらされるのは地球の砂漠化であります。日本の美しい文化「もったいない」を復活させる時だと思えます。今一つの課題は世界の人口動態です。現在世界の推定人口は77億と言われております。これが2025年には80億、2050年には約95億になると推定されます。地球のキャパシティは約80億だと言われておりますから、これを越すことになります。これに対して、先進国人口はほとんど変わらず、約11億で推移します。これは発展途上国、開発途上国で極端な人口爆発が起こると同時に、先進国では自分の国の労働力すら確保できない少子化現象が起こることを意味します。その結果、地球全体の環境破壊や資源が枯渇し、資源確保や貧困を原因とする地域紛争が起こってくるでしょう。飢餓、貧困、文盲が人口爆発の原因であります。コロナ禍が人類に提示したのは、人間の命の儚さであります。我々には残された時間は少ないのです。「生き方を改善して」一日でも、一時間でも長く人の命も、地球の命も持続させなければなりません。

ではポストコロナのロータリーはどうでしょうか？

今やロータリーは物財奉仕(形のある、目に見えるサービス)に傾倒して心が希薄になっています。ロータリーは「人道的慈善団体」であるよりも、戦前のRIがそうであったように「人づくり」のロータリーに回帰すべきではないでしょうか。RIにおいて「人づくり」の根幹をなした「職業奉仕」を大切にすることは薄れ、職業奉仕の形骸化はロータリーの空洞化であります。筋の通らない、不条理の世界で住成すものは、人類に幸せをもたらすものは、人間の心なのです。「人づくり」に徹するだけで十分にロータリーがこの

世に存在する価値はあるのです。ロータリーがともに歩んできた民主主義も資本主義も行き詰まりを迎えているといわれます。行き詰まりを打開する答えは、これらの制度の中からは見つかりません。その答えはロータリーが大切にしてきた「自己抑制と他者への奉仕」、寛容であります。私たちはこのロータリーの心を取り戻さなければなりません。その意味で、今こそロータリーの建て直しが必要だと思います。「職業奉仕」の復権による、ロータリーにおける第二のルネサンスが望まれるのです。

ポールハリスは「社会に役立つ人間になる方法はいろいろありますが、最も身近で、しばしば最も効果的な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります」と言われております。

今こそ、ロータリーのロータリーたる所以である職業奉仕の扉を開く時です。Open the door to vocational serviceです。ご清聴ありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●国際ロータリー 第2630地区ガバナー 剣田 廣喜 様

本日スピーチの機会をいただきありがとうございます。よろしくお願い致します。f

Rもお弁当を作らせて頂きました。いつもありがとうございます。

●堺 和信さん、下屋 勝比古さん

第2630地区ガバナー 剣田 廣喜 様のご来訪を歓迎いたします。3クラブ合同公式訪問であるはずが、コロナ禍における活動の制限や自粛される中、当クラブには直接お越し頂き卓話をいただきます。どうぞよろしくお願い致します。

●挾土 貞吉さん

剣田廣喜地区ガバナーのご来訪歓迎します。貴殿の地区方針、目標を読み、今日の卓話楽しみにしていました。小生も例会が職業奉仕を学ぶ道場と思い、また自分を磨く為にこの体に鞭打ち休まず出席し楽しく過ごしています。コロナ禍にあって剣田ガバナーは、毎日のポチとの早朝散歩が我が地区運営の秘策を練る大切な時間と推察しています。御身大切にして2630地区のガバナーが日本一と言われるよう頑張ってください。亡き親父さんと共に西クラブは、中央の親クラブとして応援しています。

●岡田 賛三さん、平 義孝さん、田近 毅さん、斎藤 章さん、米澤 久二さん、門前 庄次郎さん、遠藤 隆浩さん、鴻野 幸泰さん、垣内 秀文さん、向井 公規さん、田邊 淳さん、黒木 正人さん、杉山 和宏さん、松田 康弘さん

国際ロータリー第2630地区ガバナー 剣田 廣喜 様のご来訪を歓迎いたします。本日のスピーチ楽しみにしております。今後ともご指導宜しくお願いします。

●内田 幸洋さん、田中 武さん

2回目の剣田ガバナー、大変ですけどお身体を大切にガンバッテ下さい。本日の卓話楽しみにしています。

●塚本 直人さん

ようやく朝晩が秋らしくなってきました。皆様季節の変わり目の太一朝管理にはお気を付け下さい。剣田ガバナーのご来訪を楽しみにしていました。作行事も中止が続いて大変だと思いますが、元気の出る卓話を期待しています。

●下屋 勝比古さん

先週交差点で自動車同士の事故に遭いました。身体は何とか無事でした。教訓：ドライブレコーダーは相手の信号無視を証明してくれた唯一の証人でした。皆さん、安全運転で!!

●田中 晶洋さん

今月22日に今年25歳になった長女が入籍する事となりました。大学時代の先輩と大学卒業と同時に東京で同棲を始めたときにはどうなるかと心配しましたが、2年の同棲期間を経て結婚の運びとなりました。栃木県出身の義理の息子は今週16日から我が社の営業スタッフとして入社してくれました。今後皆さんのお目にかかる機会もあると思いますが、何卒よろしくお願い致します。